

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号：32658

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20380023

研究課題名（和文） 国際社会における海外の日本庭園の意義と役割

研究課題名（英文） The Role and Significance of Japanese Gardens outside Japan  
in International Communities

研究代表者

鈴木 誠（SUZUKI Makoto）

東京農業大学・地域環境科学部・教授

研究者番号：40147484

研究分野：造園学

科研費の分科・細目：農学 園芸学・造園学

キーワード：造園、日本庭園、海外の日本庭園、姉妹都市、多国籍、国際貢献、  
Japanese Garden、日本文化紹介

## 1. 研究計画の概要

「海外の日本庭園調査報告書」（日本造園学会、2006）により海外の日本庭園の概要と著名庭園の実態が明らかになった。しかし、「なぜその日本庭園が必要で、どのように利用されているのか」、は明確にされていない。そこで「海外の日本庭園の存在意義と担うべき役割」について、明らかにすることが本研究の目的である。最終的には、この研究成果に基づき、海外の日本庭園の管理・運営の向上と、それぞれの庭園相互のグローバルネットワークの構築に資することを目指している。

そのため、日本国外に造られた日本庭園の調査を継続し基本情報の追加再整理を実施しつつ、それら海外の日本庭園を大きく日本が寄贈・支援した庭園、現地独自で造園した庭園、の2グループ分けて研究を進めている。なお、国、地域により日本庭園を設置する歴史的背景や状況が異なることにも配慮しつつ研究を進めている。

## 2. 研究の進捗状況

日本国外の日本庭園全てについて現地調査などを実施することは不可能であるので、当初の研究計画を基本として、下記のような調査研究、研究成果の公表を実施してきた。（1）北米地域、特にアメリカは世界でも最も日本庭園が多いため北米の研究者との連携、アメリカにおける日本庭園情報交換のプラットフォーム構築を目指し、調査と同時に研究成果の北米における公表を実施してきた。その結果、2010年に北米日本庭園協議会（本部ポートランド）の設立が実現した。

（2）南米地域では、アメリカに次いで日系移民の多いブラジルについて現地調査を実施し、これまで不明な点が多かった移民社会ブラジルの日本庭園の全体像を把握した。

（3）オセアニア地域では、日本から寄贈・支援による日本庭園設置数の割合が極めて高いオーストラリア、ニュージーランドについて一部現地調査を含み全ての公開日本庭園への調査を実施し研究成果を公表した。

（4）アジア地域では特に近年日本庭園数増大の激しい中国、並びに友好100周年記念事業による日本庭園設置が増えたトルコにおいて現地調査を実施しその成果を公表した。

（5）ヨーロッパにおいては日本庭園設置が歴史的にも古いため、現地研究者との連携を進めつつイギリスにおける現地調査の実施、ヨーロッパの日本庭園の歴史的概要に関する研究成果発表と情報提供のお願いを実施中である。

（6）以上の国外における日本庭園の調査研究に並行して、日本国内では姉妹都市関係にて国外に日本庭園を造園した自治体関係者、造園関係者へのヒアリング調査を継続中であり、その成果も今後発表予定である。

なお、こうした一連の調査研究、情報交換、情報ストックなどに鑑み研究者らの所属する東京農大に国際日本庭園研究センター（The Center for International Japanese Garden Studies）を設置し運営することを企画中である。

### 3. 現在までの達成度

おおむね順調にすすんでいる。

当初見込んだ海外の日本庭園に対する調査研究、最終的成果を得ることではすでに北米日本庭園協議会の設置に成功し、情報収集と関係研究者との連携を含めて順調であると、評価することができる。

ただし、この数年世界のあちこちで日本庭園の築造が進んでおり、その数がさらに増えつつある状況で、特に新興国における日本庭園設置については、その意義と役割について研究計画に新たに加えるべき課題として登場してきた。この点の解消を含めば、達成度は「やや遅れている。」とすべきかもしれないが、今後の課題である。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまで、各地域、特徴的国別に考察し研究成果を公表してきた「海外の日本庭園の意義を役割」について、未調査、未公表分の地域・国（欧州、アジアの一部）について研究を進めるほか、これらの地域・国を含め世界全体、国際社会における海外の日本庭園意義や役割について取りまとめていく。なお、その際には日本（日本人）にとっての、海外の日本庭園の意義と役割についても再確認する予定である。

また、当初予定通り、蓄積してきた海外の日本庭園に関する情報の全体をまとめること。これは「海外の日本庭園調査報告書」(日本造園学会、2006)の更新を意味する。そして、この情報を冊子並びにWeb上で公開することを目指している。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. Makoto SUZUKI, N.MAKITA, Japanese Gardens Outside of Japan: as a symbol of international cultural exchange, Proceeding of the ECLAS Conference in Istanbul, 2010, 645-653 (査読有)

2. Naoko MAKITA, T. HATTORI, M. SUZUKI, et.al, The Feature and Role of Japanese Gardens in Australia through Cultural Exchanges, the 48th IFLA World Congress in Suzhou, Proceeding CD, 2010, Session No. 1 (査読有)

3. Wenjing LV, T. HATTORI, D. GE, M. SUZUKI, N. MAKITA, The Present Situation and Topics of Japanese

gardens in the Middle and Eastern Parts of China, the 48th IFLA World Congress in Suzhou, Proceeding CD, 2010, Session No. 1 (査読有)

〔学会発表〕(計4件)

1. 鈴木 誠、国際社会における海外の日本庭園の評価 - 試論的考察、日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集 第27号、6-7、明治大学駿河台校、2009年10月17日

2. M. SUZUKI, Japanese Gardens of the Americas, The 53rd International Congress of Americanist, The Universidad Ibero-americana, Mexico City, メキシコ2009年7月21日

3. M. SUZUKI, Evolution of Japanese Gardens: Japanese Gardens Outside of Japan, International Conference on Japanese Gardens outside Japan, カリフォルニア州立大学ロングビーチ校、アメリカ2009年3月27日

4. 鈴木 誠、国際社会における海外の日本庭園の意義と役割 研究の構想と目的、日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集 第26号、1-2、東京大学農学部、2008年10月11日